

「ナノピア TARC」院内導入に向けた基礎的検討

◎岡本 亮輔¹⁾、坂本 和也¹⁾、望月 真也¹⁾、松本 典久¹⁾
市立吹田市民病院¹⁾

【はじめに】TARCはTh2細胞に特異的に発現するケモカイン受容体CCR4のリガンドでTh2細胞を遊走させる。TARCはアトピー性皮膚炎患者の重症度を反映する有用なバイオマーカーとして近年、その臨床的ニーズが高まっている。今回、我々は生化学自動分析装置で測定可能なラテックス免疫比濁法を原理としたナノピアTARC（積水メディカル株式会社）の基礎的性能評価を実施したので報告する。【対象と方法】日本電子株式会社BioMajesty™ZERO JCA-ZS050を用いて、併行精度、室内再現精度、オンボード安定性、直線性、プロゾーン試験、相関性試験を実施した。尚、相関性試験は化学発光酵素免疫測定法（CLEIA法）を測定原理としたAIA-パックCL®TARC（東ソー株式会社）を対照とした。【結果】併行精度：2濃度のコントロールおよび自家製プール血清を20回連続測定した場合、C.V.は1.55～3.92%であった。室内再現精度：2濃度のコントロールを10日間測定した場合のC.V.はLow=4.25%、High=2.62%であった。オンボード安定性：2濃度のコントロールを21日間測定し、Low=110.15%、High=101.40%で

あった。直線性：試料をブランク試料で10段階希釈し、3回測定を行ったところ添付文書の測定範囲の上限を超える直線性が得られた。プロゾーン試験：高濃度試料(約100,000pg/mL)を生理食塩水で10段階希釈3回測定したところ、フック現象は認められなかった。相関性試験：患者血清(n=106)を用いて2試薬を比較した場合、相関係数 $r=0.995$ 、回帰式は $y=1.12x+79.2$ となりAIA-パックCL®TARCと比べナノピアTARCは高値傾向であった。当日は追加検討も含めて報告する。【まとめ】今回の基礎的性能評価ではいずれの項目も良好な結果が得られた。TARC値は測定時点での皮膚状態を反映するため、アトピー性皮膚炎の治療方針の決定に利用されている。生化学自動分析装置で測定できる本法は、測定時間約10分で報告可能な為、診療前検査として臨床・患者サービスに貢献できると考える。

連絡先：06-6387-3311(内線：3210)